

令和5年度第1回川崎市社会教育委員会議
青少年教育施設専門部会 摘録

- 1 日 時 令和5年11月24日（金）午後0時30分～午後2時
- 2 場 所 川崎市八ヶ岳少年自然の家
- 3 出席者
 - (1) 委 員 番匠委員、中井川委員、境委員、松田委員、元木委員
山川委員
 - (2) 事務局 川崎市こども未来局青少年支援室 柳原課長、上原係長
 - (3) 施 設 川崎市子ども夢パーク 友兼所長
川崎市黒川青少年野外活動センター 野口所長
川崎市八ヶ岳少年自然の家 名取所長、三井副所長
川崎市青少年の家 佐藤所長、齋藤副所長
- 4 議事
 - (1) 令和5年度の事業計画の進捗状況について
 - (2) その他
 - (3) 川崎市八ヶ岳少年自然の家施設見学（希望される委員のみ）
- 5 資料
 - 資料1 青少年教育施設専門部会委員名簿
 - 資料2 川崎市社会教育委員会議規則
 - 資料3 青少年教育施設の概要について
 - 資料4 令和5年度川崎市子ども夢パーク・フリースペースえん事業報告
 - 資料5 令和5年度事業進捗状況（10月末時点）（黒川青少年野外活動センター）
 - 資料6 令和5年度の事業の進捗状況（川崎市青少年の家）
 - 資料7 令和5年度八ヶ岳少年自然の家 事業進捗状況について

6 議事内容

○上原係長 皆様におかれましては、今日は遠路はるばるお集まりいただきまして、ありがとうございます。初めに、今日の大まかな流れについて御説明させていただきます。今年度は、委員の交替がありまして、中学校長会から元木先生、あと小学校長会から山川先生が今回から御参加いただいております。まずは今回、委員のお二人から一言御挨拶をお願いできればと思っております。

その後、議事に入りまして、1番、各施設から令和5年度事業計画に対する進捗状況の御報告とそれに対する質疑応答や意見交換の実施、次に2番、その他各施設の運営に関する意見交換の実施、最後に、希望される委員の方を対象とした八ヶ岳少年自然の家の施設見学の実施を行います。

基本的に全委員が参加する議事2までを、午後2時までに終了するというスケジュールを予定しています。

続きまして、会議の成立についてでございますが、本日の会議は9名の委員中出席者6名、委員の過半数を超えておりますので、会議が成立していることを御報告いたします。

続きまして、傍聴者の確認についてでございますが、本日は傍聴者なしということで御報告いたします。

続きまして、会議の公開についてですが、この会議の公開について御説明をさせていただきます。この会議は、市の審議会等に準ずる会議という扱いになっておりますので、川崎市審議会等の会議の公開に関する条例によりまして、個人情報に関わる事項を除いて一応公開が原則というふうな形になっております。したがって、会議の内容は公開の対象となりますこと、あとまた後日公開します会議録におきまして、発言委員のお名前等も公開対象となりますので、御了承いただきたいというふうに思っております。

(異議なし)

それでは、最初に行政を代表しまして、青少年支援室の青少年育成担当課長の柳原から一言御挨拶を申し上げます。

○柳原課長 この川崎市役所のこども未来局青少年支援室で青少年育成課長をしております柳原と申します。委員の皆様におかれましては、本日はお忙しい中、

八ヶ岳少年自然の家部会に出席をいただき、大変ありがとうございます。

青少年施設教育専門部会は、市民の皆さん、社会教育関係団体、学識経験者とか学校関係者の皆様に委員をお願いいたしまして、青少年教育施設の円滑な運営を図るため、施設における各種事業の企画実施について、調査・審議をしていただくことが所掌事務となっております。

直近の特に大きな動きとしては、新型コロナウイルス感染症が第5類へと移行された中で、本市の青少年教育施設の運営について、基本的な感染対策は行っていただきつつも、社会経済活動との両立を図るという方針の下に、施設内での飲食ですとか利用前後の会食に関する制限は解除して運営をいただいているところはあるかと思えます。

コロナ前に利用者数を戻していく、あるいはさらに青少年教育施設として充実をしていく上で、今回の各施設からの御報告を基に、委員の皆様のバックグラウンドに基づく様々な御意見が伺えると幸いです。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○上原係長 では、次に、新任の委員お二人から、一言自己紹介をお願いします。

(山川委員、元木委員から自己紹介。加えて指定管理施設の出席者、事務局職員の紹介)

○上原係長 続きまして、資料の確認をさせていただきます。

(配布資料の確認)

以上、よろしければ、このまま議事に入らせていただければと思います。この後の進行につきましては、今回は番匠副部長様にお願いしたいと思っております。番匠副部長、よろしくお願いいたします。

○番匠副部長 それでは、お手元の次第に沿って議事を進めたいと思います。早速ですが、(1)令和5年度事業計画の進捗状況についてということで、指定管理者から10分程度で説明をお願いしたいと思います。各施設からの報告後、報告内容に関する質疑の時間を5分程度設けますので、報告内容に関する質問があれば、そのときに挙手をお願いしたいと思います。報告内容以外の質問に関しましては、議事(2)その他で改めて自由に質疑応答の時間を設けますので、そこをお願いしたいと

思います。

それでは、こども夢パーク、友兼所長からお願いしたいと思います。

○友兼所長 夢パークの友兼です。よろしくお願いします。資料4を見ていただけたらと思いますけれども、夢パークにおいては、日常の取組の下に書かせていただいておりますが、今年の上半期での来場者が3万9,236人ということで、約4万人です。コロナの最中、コロナ前という言い方が難しいところではあるんですけども、平成30年が8万7,000人ということで、多分今年度が終わると8万人にのってくるんじゃないかなというところで、順調にというか、コロナ前の数字に近くなってきているのを見てとれるかなというふうに思っております。

今回の進捗報告を行うにあたり、各施設の課題や問題点ということを少し挙げてほしいという御意見が、以前に委員からありましたので、まず先にその部分を書かせていただきました。幾つか現在の状況、そこから見られる課題、改善案みたいなものを書かせていただいているんですが、コロナになってからという言い方が正しいかどうか分かりません。多分皆さん在宅になられた方も多い中で、6時以降に中高生がバスケットをしている音や声に対して、苦情というか騒音、うるさい、もうちょっとどうにかできないかという話が、この一、二年くらい出てきています。施設開所当時の20年前も多少ありましたが、ここ一、二年でまたそういう話が出てきて、子どもたちとどういうふうに声を抑える工夫ができないかということと、役所と相談しながら遮音カーテンみたいなものが作れないかという話をちょっと今検討したりしているところです。

また、昨年度、夢パのじかんの映画やドキュメント72時間といったメディアでの露出もあり、認知度はさらに上がったと感じていますが、一方で、子どものやってみたいを大切にするという理念などが伝わり切らない中で来場者ばかりが増え、また見学者や視察が増えというところで、そこへの対応に付随する負担が、スタッフの中で少し重くなってきています。

つい先日別件でちょっと調べたんですけども、上半期に視察や取材の申込みというか希望された方が130件余りあったんです。実際にお受けできたのは100件くらいでした。地方から東京に来られた際に見たいという方や、取りあえず見学だけさせてくださいみたいな方も合わせると、下半期はさらに増えるんじゃないかなというところで、僕らとしては、うれしい悲鳴というか、何とか難しいところではあるんですけども、ちょっと難しい、結構大変なところにあるなというふうに思っています。

その下には、施設の中で大分暗い箇所がありましたので、そこに明かりをつけたりしたこと、5分間温水が出る温水シャワーを新たに設置したことによる人気というか、利用率も大分上がってきているんじゃないかなということなどに触れています。

あとは、見学者が増えたり、来場者が増えたりしたことによって、ふだんスタッフで対応していた施設の修繕というか、掃除や植栽の管理みたいなものが少し後手に回っているかなというところ、また今年は気候のせいも、非常に草木が伸びるのが早いんじゃないかというところを夢パークでは話しています。ほかの施設はどうだろうと思いますけれども、植栽の管理の部分、生木がお隣さんに飛び出るような部分がちよっと目立ってきているというのも課題の1つかなと思っています。

もう1つ、大きな課題かなと今、夢パークで話しているのは、フリースペースえんとは別にプレーパーク、いわゆる一般来場者の部分で、夢パークは登録制ではないので背景をつかんではいないですけれども、やや福祉的な課題を持っていると思われるような、個別対応が必要と思われるような子どもたちが見受けられるのが多くなってきたような感じを受けています。この感覚は、夢パークが子どもたちの居場所というか、安心していられる場所になって、人が集まってきたから、とも言えるのかもしれないけれども、そこに対応するスタッフの力量というか、専門性というか、そういう部分もまた求められてきているというところが、昨今のちょっと大きな課題というか、問題点になってきているのかなというふうに思っております。課題としてはその辺りかなと思います。

次に、大きな事業の進捗ですけれども、今年夢パークはちょうど20周年だったので、例年夢パまつりとして海の日にやっていたお祭り、これがちょうど次の2ページ目の頭になりますけれども、夢パおたんじょう日祭りということで、今年はオープン日の7月23日がちょうど日曜日だったということもありまして、そこで20周年をお祝いするお祭り、例年なら水と泥で一日中遊ぶというところですが、そこをやりながらもちょっと抑えて、ステージでお祝いのコンサートをやったりとか、子どもたちの発表をしたりなんていうことをさせていただきました。今日着てきたのは、そのときに一緒に作った夢パーク20周年の記念Tシャツなんですけれども、こんなものを市民の方と一緒に作ったり、売ったりとかしながら少しやってきました。

コロナ禍の中で、中高生が中心になってきたK U J I R O C Kを再開しました。これまでは、ほとんど中高生から、先輩から後輩へという形でつなげてきたんですけれども、コロナの中で3年やれなかったのも、ノウハウが全部止

まってしまったというところがやはり大きな問題でした。そのOBや社会人になったOB、大学生たちが、やはりK U J I R O C Kの面白さ、地域を超え、1つの学校を超え、地域の中で年の差でやるという面白さを途絶えさせちゃいけないというか伝えたいということで、OBが結構力を発揮してくれて、やっと今2回くらい開催できて、今年もう1回、今年度中にもう1回やりたいということの中高生たちが言っていて、今準備中のところです。

もう1つ大きなイベントは、こどもゆめ横丁です。今回は上半期の報告ということで、今回の報告書には数字が入っていないですけれども、今年は過去最大の店舗数で、18回目にして50店舗の子どもたちの参加、160人でした。スタッフとしては、本当にそれがやり切れるかどうか、場所的にどうなのかということ、いろいろ懸念はあったんですけども、一応50、そのまま何とかやり切ろうということでスタッフと話をして、やり切りました。当日は2,000人弱の来場者があって、これもコロナ以前の数字にほぼ戻ってきたかなというところになっております。

その他のところで、プレーパークをやっています、スタジオをやっていますとかいう辺りは、以前と変わりはありませんので、割愛させていただきます。

連携事業のところは川崎市こども会議と3ページ目にありますけれども、つい先日、このこども会議を視察に来るということで、こども家庭庁の加藤大臣が急遽来られて、夢パークの全体像を15分程度で、こども会議は50分程度で、合わせて1時間ほど夢パークに滞在されて、視察されました。直接取材のぶら下がりではない通りすがりのところで、子どもの話の中で安心という言葉が出たのが印象的でしたなんていう話を大臣とはお話しさせていただきましたけれども、こども会議であったり、夢パークを支えているボランティアや支援会議などの力をいただいたりしながら、日々の運営を行っているというような形になっております。

あと細かい会議や連携のところは、またちょっと割愛させていただいて、4ページ目に関しても、研修事業や自主企画は、いろんな会議体を構成してやっておりますということで、ちょっと時間が空いたら目を通していただければなと思います。

次にもう1つ大きなところで、フリースペースえんのところに移らせていただきますが、現在の登録者数が、小学生45名、中学生43名、高校生18名、18歳以上が35名で141名でした。昨年度末、昨年度の登録者が145名だったので、この時点で141名というのは、非常にこち

らも数が多い状態になっておりまして、2か月に1回説明会をして、新たな登録に向けての面談をするようにしているんですけども、この2か月に1回の説明会の予約がほぼ取れないというか、すぐ、30分から1時間で全部埋まってしまう。常にキャンセル待ちが20人、30人という状況が続いているのがフリースペースえんの現状です。

面接すること、登録させちゃうことはできちゃうのかもしれないけれども、それは、要は現場では受け入れ切れない数になってしまうので、こちら辺は夢パーク、フリースペースえんというだけでなく、川崎市の大きな不登校の課題として、やはり年1, 300人、1, 500人を超える不登校に対して、夢パーク。小中だけだったら、これで90人くらいなわけですよ。そこに対するいろんなことを僕らも考えていかなきゃいけないなと思いつつ、夢パークで受け入れられるのは、ここが精いっぱいな部分なんじゃないかなというふうに思っております。

夢パーク、フリースペースえんでは決まったカリキュラムがないので、日常的には自分たち、それぞれが講座の中で選択して参加をしてという形になっています。もちろん御飯を作ったり、楽器演奏、勉強、鬼ごっこ、ゲーム、いろんなことをしながら子どもたちは過ごしております。

次のページの一番最初に書かせていただいておりますが、久しぶりにキャンプで八丈島に行くことができ、今まではコロナで島に入らせてもらえなかった。僕らも入らせてもらえなかったんですけども、やっとキャンプもオーケーだよと許可が出たので、今年43名の参加者とともに行ってきたというところです。

子どもたちは今、次のスキー合宿に向けて準備しているんですけども、このまたちょっと別の意味での課題というと、物価高騰の中で子どもたちの参加費が非常に高騰せざるを得ない状況になっていて、ちょっとまた後で八ヶ岳さんも実際今どれくらいなのかなというところで、僕らが利用できる余地があるのかどうか、日程的な問題とかもちょっとお話しできたらなと思っているんですけども、うまく活用して、子どもたちの参加費を抑えるということも1つの課題かななんてことも、今スタッフのほうではちょうど話したりするところです。

それと、今、子どもたちは3月の活動発表会、フェスティバルに向けて準備をして、チケットを作り、チラシを作り、テーマを決め、これからプログラムを組んでいくなっていうことを自主的な参加としてやっているというのが現状で、これからあと3か月くらいですか、3か月くらいかけてプロジェクトXを中心にやっていくというような形になっておりますので、お時間のある方は御来場いただければ幸いかなというふうに思っております。

あとは、細かいこんな講座やっています、あんな講座やっていますというこ

るので、資料を見ていただければと思います。雑駁ではありますが、上半期と直近の課題について御説明させていただきました。ありがとうございます。

○番匠副部長 ありがとうございます。それでは、以上の説明について質問等ごさいますでしょうか。

それでは、私から感想と質問ですけれども。夢パーク、先日というか結構前に、私も子どもとあとママ友や子どもを誘って、利用者として行きました。温水のシャワーとかは非常に使い勝手もいいですし、子どもたちとかに非常にすばらしい体験をさせていただきまして、すばらしいと思っております。

近隣の苦情といいますか、そういうものがあるということですが、知り合いの子どもの声は心地いいけれども、知らない子どもの声は騒がしいみたいな、そういうのってあるじゃないですか。例えば、近隣の方との子どもたちの交流の場であるとか、説明の場であるとか、そういうような活動はされているのでしょうか。

○友兼所長 直接的な対話というのは、まだ、そういう意味では実現していないというか、あまり僕らのほうでは考えていなかったですけれども、子どもたちに、近隣からこういう声があるけれどもということで小さい会議を試みたりとか、来所したときに何か工夫できないかなということ、スタッフと利用者の子どもの間での対話を試みたりということはしてきました。

近隣からの声としては、バスケをしている音自体はまだいいけれども、興奮したときの奇声みたいなものが非常に気になると。近所で何かあったときに、いわゆる悲鳴を上げて助けを求めている声と混同しそうな言い方をされていましたが、そういうところで、とにかく奇声をまずは減らせないかなというところを話し合ってきました。

中学生たちは、それが分かっているから奇声を上げないようにしてくれているけれども、数人盛り上がるとやっちな子もいる、行くといつもあいつだよと、いつも同じ子だというふうな。複数のグループの中にそういう子が一人ずつぐらいいると、結局毎日のように誰かが奇声を上げちゃうみたいなのが現状で、人の工夫でやることには、ちょっと限界が来ているかなということもあって、一部開いている全天候広場の一部を塞ぐことで、少し音の反響が変わらないかなといった、物理的なところで対応を検討しているところが現状かなと思っています。

○番匠副部長 ありがとうございます。例えば遊園地とか、その近隣というのは、騒がし

かったり、交通が乱れたりとか、そういう対策として、例えば無料で入れるチケットを地域に配るといった感じで、あるのが迷惑な場所ではなくて、あることで私たちも楽しめるとか、何かこういうものが近くにあつてうれしいみたいな、そういう状況になれば近隣の苦情が減るかなと思いますけれども、何か近隣参加型のイベントを企画して呼びよせるとか、何か工夫ができればなというような気がします。難しいですか。

○友兼所長　そういう意味では、毎年1月の新春イベントは餅つき大会をやっているんですけども、そこはもう町会の皆様に楽しんでいただくというか、夢パークに入っていただくきっかけとしてボランティアみたいな、餅つきと一緒に、助けてくださいということで、協力をお願いということで近隣町会を回って、毎年四、五十人くらいの婦人部、青年部、子ども会の人たちが一緒に来て、餅つきを中心にやっていただいている代わりに、スタッフが町会のイベントに少しお手伝いに行くなど、いろいろ工夫をしてくれています。町会の方にやっぱり実際に入ってもらったほうが、見てもらったほうがということで工夫はしてくれていますけれども、やはりちょうど全天候広場の形は、来ていらっしやったことがある方は分かると思うんですけども、抜けている方向が一方なので、そのことが多分同じ場所にずっと向いていってしまうという、それはもう施設の形上の問題として、そのエリアの人たちがやはり声がうるさいとか、かなり響くというのがあるよだということが分かってきた感じですか。あるよだとか、昔から言われてはいるんですけども、そこら辺がまた難しいなという部分です。

○番匠副部会長　分かりました。ありがとうございます。あともう1点、見学の申込みが多いであるとか、えんの説明会がもうキャンセル待ちになるとか、そういう話を聞きますと、夢パークのような施設といえますか存在は、もう市民にとって非常に高いニーズがあると。その証明だと思います。だから、夢パーク1つではもう対応し切れないというのも現実だと思います。

見学にたくさん来てくれるのはいいことだと思うんですけども、来てアクションを起こして、見学してくれたところでまた同じようなものができていって、国民、市民の問題の解決に役に立つんだらとてもいいことだと思うんですけども、ただ見て感心して終わりでは、あまり意味がないじゃないですか。

今、こども家庭庁の大臣の話もされたりしていましたが、これから非常に注目される分野だと思いますので、この部会というよりも川崎市と

して、もう第2、第3の夢パークのような場所を用意するであるとか、それこそ子ども家庭庁ができたということで、国と連携して子どものための施策を新たに始めるとかというようなことが必要なのではないのかなというふうに個人的には思います。

この部会がその動きに少しでもお役に立てればなと思いますので、何らかのアクションをしていければなと思っております。

それでは、次ですけれども、黒川青少年野外活動センターから説明をお願いしたいと思います。

○野口所長 では、黒川の報告をさせていただきます。うちはいろんな主催事業をやっておりますので、まずその主催事業の報告からさせていただきます。

新型コロナウイルスが5類になった関係で、申込者は大分増えてまいりました。コロナの渦中では、いろいろなチェック体制だとか、あとは事業形態とかをいろいろ考えて、ノウハウをつくってそれを積み重ねてきたわけですが、短期間で実施できるプログラムを多く実施しています。コロナの間は、泊まりのプログラムは全てなくして、日帰りだとか2時間とか、そういう短時間でできるものを増やして行って、気軽に参加してもらえそうな形を取らせてもらいました。できるだけ気軽にということが中心だったかなと思います。

また、コロナの影響という部分では、小学校の高学年だとか中学校だとかの多感な時期の体験活動に伴って、我々の指導の声かけだとかそういったものも、何だろう、今までだったら言えばできたものが、結構できないといったことがありました。どうということかという、例えばピザをやっているときに、みんなすごく話を聞いてくれます。この子たちはしっかり話を聞いてくれるから、このぐらいの説明で通じるだろうと思って実践を始めると、結果、予想していない結果になることがあります。コロナだった関係か、静かに、じっとしてられるけれども、いざ仲間と活動をするとなると、うまく連携してできていないということが見られる。だから、我々の感覚でいつものように指導していると、何か最近の子どもたちの様子はコロナ以前とは違うということを感じています。ここには生徒同士のコミュニケーションの不足だとか、運動能力、体力の低下ではないかと書きましたが、何かそういったものが、コロナの影響か、見受けられるなというのを感じた次第です。コロナで我々が指導する子どもたちの様子に変化しているのを感じたということになります。

また、ゴールデンウィークに行ったドラム缶ピザとかの好評なプログラムに関しては、コロナ禍のときには家族単位だけで実施していましたが、やっとコロナが

落ち着いてきたという所もありましたので、コロナ前のように何家族かが協力しながらピザを作るという形を取らせてもらいました。結果、やっぱりみんなで協力して作るほうがいいと感じました。家族単位でやるよりは、家族同士で協力して、ほかの家族の子どもの面倒もお母さんやお父さんが見てくれて、そして子どもたち同士がすぐ仲よくなって、みんなでピザを作っておいしく食べると。結果、ここにもアンケートの結果が書いてありますけれども、徐々に人が集まる活動ができて楽しかったとか、衛生に気をつけながらも、またこういった活動ができてよかった。非常にプラスの御意見をいただいています。

その下に、今年度上半期に新たに行った事業ということで、スローライフクラブという事業を実施してみました。例えば、今ちょうど時期の柿について、1年前からこの時期に収穫をやりますと決めても、収穫に一番適した時期とは若干ずれてしまう可能性があります。このスローライフクラブの取組は、手仕事などを楽しもうということで、タケノコでメンマを作ってもらったり、藍染めの体験をしたり、干し柿とか柿酢を作ったりというプログラムですけれども、予め時期を決めるのではなく、事前に無料で登録をしていただいて、登録していただいた人に、1週間前ぐらいに柿がなったから手作業やりませんかという案内が送られるわけです。それで、興味のある方に事前に登録していただいて、タイミングよく案内を流して、来られる方に来ていただいて参加していただくというような取組を実施し、メンマや藍染め、干し柿作りみたいなものが実際に行われました。干し柿作りに関しては、3日前に連絡をさせていただいて、それでも4組の方に御参加いただきました。新たな試みとして、自然に合わせた形でタイミングよく実施するのがこのスローライフクラブでございます。

あとは、親子で叩き染め、藍染めの体験です。叩き染めの体験、こういったものも新たに企画して行いました。タイミングよく藍の葉っぱが取れる時期にやったわけですが、それと同時にいろんな葉っぱも取ってきて、いろんな葉っぱで叩き染めをするものですから、そういう自然観察にもつながったというふうに思います。トートバッグを作って持って帰ってもらいました。

3番目は、黒川テント村ということで、夏の一番暑いお盆の時期、お盆の時期って意外にうちは人気がないんです。皆さん実家に帰省したり、あとは気候自体非常に暑かったりというのがるので、その時期にあえてキャンプ体験をしようということで、参加者を募ってテントで泊まるという体験をしてもらいました。

これは本当に自由にテント体験をしてもらうんですけれども、我々指導者がいて、いろいろアドバイスができますので、初めての方が遠くにキャンプに行く前

に、黒川で本当に1泊ないしは2泊キャンプ体験をするということをしてもらいました。竹で作る水ようかんだとか、トレイルカメラで野生動物を見るだとか、そういったプログラムも参加者に合わせて職員で実施し、好評を得ました。

こういった事業を新たに実施したのと同時に、今度下半期に関しては、自然体験のフェスティバルという300人、スタッフを入れると600人ぐらい集まるイベントだとか、あとはしめ縄飾りのイベントだとか、この後大きなイベントが待っていますので、それを実施していく予定になっています。

ただ、1月は、うちはちょっと浄化槽の工事が入ってしまう関係で、入り口の坂を掘り返されてしまうとか、トイレが使えなくなってしまうので、ちょっと1月は休所にせざるを得ないような状況でございます。

また、2月に関しては、2月いっぱい入り口の坂が掘り返されてしまって車が入れない状況になってしまうので、施設は開けるんですけども、荷物を運んだり、車で来たりすることができないよという案内をしつつ、それでも使っていただけの方には使っていただくというような状況でございます。実際には早く工事が終わればオープンできるんじゃないかなと思いますが、2月いっぱいまではそういう状況ですと、今、利用者さんにはお伝えしています。また、それが早く終われば、ホームページ等で情報を流したいというふうに思っています。

続いてですけれども、いろいろな事業の参加人数等は、ここに表になっていますので御覧いただければと思います。順調に集まっています。うちのほうは、例えば天気が悪くなると急遽キャンセルされたりということもありますので、そういったときにちょっと人数の少ない事業もあったりしますけれども、そんな状況もありましたということです。

次に、4ページ目を見ていただけると、今年度の運営から見た課題、来年度に向けてですけれども、簡単にまとめさせていただきました。施設の運営業務についてということで、コロナが明けて利用者が戻ってきました。戻ってきたのはうれしい話ですけれども、土日の利用が集中しているものですから、やっぱりどうしてもお断りせざるを得ない団体さんがいるというような状況でございます。なかなか難しいですけれども、平日に行えるプログラムなどを増やして、そちらのほうにもとは思っていますけれども、ボーイスカウトさんであったり、ガールスカウトさん等の会員さんであったり、土日じゃないと動けないのはよく分かるので難しいですけれども、極力うまく割り振りしながら、多くの団体に使っていただけ

るようには考えております。

施設の管理業務についてということで、今うちが困っているのは、ナラ枯れです。ナラ枯れで大分コナラの木が枯れてしまっています。枯れるだけならいいんですけども、ちょっと風が吹くと大きな枝が落ちてきたりして、だから、魅力の森に子どもたちに入ってもらえない。立入禁止にしている場所が何か所かあります。そのナラ枯れを処理しなくてはいけないので、運よく1月に休所になりますので、職員で頑張っって木を切らせていただきたいと思います。とっております。

あとは、どこの施設も一緒だと思いますけれども、うちもかれこれ40年の施設になりますので、いろんなところで経年劣化をしているものがあるというお話になります。この間、何とグラウンドから水が湧くということもあり、急遽対処しました。

次のページを見ていただくと、指導依頼をいろいろいただいて、我々職員がドラム缶のピザであるとか、冒険教育のプログラムであるとか、バウムクーヘンを作ろうなんていうプログラムを指導させてもらった団体の一覧を書かせていただきました。

6ページ目に、施設の利用状況を載せています。コロナ前の平成30年度と比較して、そこまではまだ戻っていませんけれども、逆に今の人数が適正人数なんじゃないかなというような気がしています。

下の表の左の下、平成30年度は利用率が110%とかというような状況で、うちは建物の宿泊定員が76名ということになっていますので、それで計算すると、例えばイベントをやると1日600人とか来ると、それを横に並べると人数が多くなっちゃうというのがあるんですけども、110%とかという数字よりは、今は100%に近い数字になっていますので、これくらいが適正なのかもしれないなとも思っております。以上でございます。

○番匠副部長 ありがとうございます。それでは、ただいまの説明に対して質問等ありましたらどうぞ。

それでは、私から質問ですけれども、5ページです。指導依頼というものがあありますが、こちらは外部に職員が出て指導するということだと思いますけれども、それぞれ何人ぐらいの受講者がいたかとか、利用者がいたかとか、そういう記録は残っていますか。

○野口所長 ここには上げていませんが残っています。このすべてが外部ではなくて、黒川

のセンター内で実施しているものがほとんどです。幾つか外に指導に出ているものもありますけれども、ほぼ黒川のセンターに皆さんに来ていただいて、うちでドラム缶のピザをやっていただいたりとか、いろいろなプログラムを体験していただいたりしています。

○番匠副部長 なるほど。では、それぞれのプログラムの参加者は、この最後に出ている参加者に含まれているということですか。最後のページに利用延べ人数がありますが、その中に含まれているということですね。

○野口所長 含まれています。

○番匠副部長 分かりました。

○境委員 いいですか。要望としてなんですけれども、事業について、日程だけ見ると、さっきおっしゃったように曜日が分からないので、曜日をこの脇に書いておいていただくと曜日もわかりやすいです。

○野口所長 そうですね。これは指導依頼のところでもよろしいですか。

○境委員 資料全体的に、曜日が入っているといいかなと思います。

○野口所長 意外に土日が多いんですけども、学校団体に関しては、平日に多く来てくれますので。学校の場合は、結構学年単位で利用してくれるので、結構多い学校は100人単位とかで来てくれて、今年残念だったのは、地元のはるひ野の中学校さんが来てくれる予定だったのが、天候が悪くて、最初から天候が悪い場合はお断りですということだったので、お断りをせざるを得なかった状況があります。川崎の高校生が来てくれる予定が、それは200人来てくれる予定だったけれども、天候が悪くて駄目だったということもあります。タープを上げて対応したりもしてはいたんですけども、ちょっと人数が多いものですから、タープだけでは足りないんで、これもうちの課題ですけども、昨日はるひ野の校長先生がいらしていたので、お話しさせていただいて、うちにテントがあるんだけどなと言うから、先生貸してくださいという願いをしたんですけども、何かそういう協力ができる、もしかするとある程度の雨の中でもプログラムの対応ができるのかもしれないなと思っております。

○番匠副部長 松田委員、お願いします。

○松田委員 ガールスカウトの松田と申します。今お話がありましたけれども、ガールスカウトでもバウムクーヘンとか作るのに参加させていただいたりもしていますが、ちょうど昨日は、麻生区の地域協力会議のこども会議で行って、使わせていただきました。野口さんにもピザの御指導をいただきまして、地域の子どもたちが集まってピザを作って、午後はこども会議ということで会議を行うんですが、住みやすい地域にするにはどうしたらいいとか、自分たちの将来を考えて話し合うというような機会があったときに、子どもたちから、黒川とか、青少年の家とか、夢パークとか、イベントが開かれる場所をもっとつくってほしいという要望があって、最後にチームに分かれて発表したのですけれども、それをまとめて麻生区長さんに直接お話をしたんです。区長さんも出席されていたので、地域の要望ということで、こういったイベントとか、地域の方たちと交流が持てる、そういう会を開いてほしいというのが子どもたちの意見とアンケートのまとめでありました。

先ほどもお話があった夢パークさんも視察が多いということですが、実際新しく似たような形のそういった場所ができていくというのがなかなか難しいとは思いますが、川崎の子どもたちがもっと伸び伸びとそういった体験、自然の体験ができる箇所を増やしていただきたいというのがありまして、今後もまた黒川を使わせていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○番匠副部長 ありがとうございます。ほかに何か御意見、質問ございますでしょうか。大丈夫でしょうか。それでは、続いて、川崎市青少年の家からの説明をお願いいたします。

○佐藤所長 よろしくお願いたします。資料6になります。利用状況ですが、1番のところに載せてあります。利用者数と団体数という形で、まだコロナの前の状況には達していませんが、人数等は増えてきています。団体数も増えてきています。

ただ、現在、利用団体に関してなんですが、4人以上が一応利用できるというふうな条件がありまして、家族での利用というんですか、そういう団体がちょっと増え始めまして、結局幼児のお子さんが2人で夫婦、お父さん、お母さんが2人というような形で、そうすると団体が4団体くらい入ると、もうリーダー室とかそういうところが埋まってしまうと、人数が消化できないような状

況が結構出てきております。そのことに関しては、ちょっといろいろなことを考えながら、リーダー室を使わなくても可能なのかどうかというようなことも含めて検討しております。

ただ、うちの施設に関しては、夢パークさんとか黒川さんとまたちょっと違いまして、やはり町の中にある施設でございますので、そういう意味では、研修・宿泊利用というものが主になっております。

言えることは、宿泊に関しては、やはりかなり平日の利用ということで、春とか冬に関しては、高校の橘高校さんはバレーボールが強いものですから、橘高校さんに遠征に来ている高校さんが泊まっていくというような形もかなり増えてきております。本当にこれに関しては、私が橘高校に出向いて顧問の先生に、こういう平日だったら空いていますので、御利用いただけますかということを説明させていただいて、利用団体を増やそうというような形で進めております。

次に、事業について御説明します。各事業の詳細については、本日お配りしています令和4年度の所報も参考にさせていただければと思います。

まず、今年度幼児向けの事業として、のびのびクラブとかおはなし会、親子リトミック、親子で水遊び、親子ふれあい動物園、幼児体操教室というような形で進めております。この幼児のほうも、うちの施設に関しては、主催事業に関しては、当日現金払いというような形を取っていますので、そういう意味では収入が上がらない場面もありますし、またできるだけ利用者の負担を安くしようというようなことも考えながらやっています。あと、おはなし会とかは職員が対応したり、ボランティアが対応したときもできるだけ無償で協力をお願いしたり、という対応をしております。

おはなし会なんかは、シニアサポーターズクラブの方たち、年配の方たち、その方たちが紙芝居をやったり、指人形をやったりという形でやってくれています。このおはなし会に参加している子たちが、またうちの施設のイベントなんかを使ってのびのびクラブに進んでいってくればいいのかと思っております。

ただ、いろんな保護者様たちがおりまして、のびのびクラブなんかでも、一プログラムと次回のプログラムがちょっと違うわけです。そうすると、同じ値段とは何なんだというようなことを言われたりもするので、その辺のことも含めて、結局現金はその日しかもらわないんですけれども、やはりそのような方たちもいるので、そのような方たちにもやっぱりうまく対応できるような事業も考えなくちゃいけないねということをお話しております。

小学生、中学生向けの手作り・チャレンジ体験クラブでは、小学生の低学

年と高学年を対象にしています。こちらはかなり募集がありますが、すぐ埋まります。今年度チャレンジの体験だけは人数が多くてちょっと抽選をしたんですが、やはり抽選をしてしまうとかわいそうだねということで、何かそれで救えるところはないだろうかということで、サマーキャンプと今年度新規事業に書いてありますが、サマーキャンプという形で、1泊2日で施設を使っただいて、職員が指導するような事業を入れてみました。

その抽選に漏れた方たちは、やはりほとんどの方たちに申し込んでいただいて、喜んでいただいたような現状です。何とかやはりそういうふうな抽選をしないで事業を進められるような方法を考えていかなくちやいけない施設じゃないかなと思っております。

あとは、ほのぼのスクールなんですけど、これは平成10年から始めておまして、学社融合のときから始まって、教育委員会がまだ青少年の家を管轄しているときに学社融合ということで始めた事業です。これは西梶ヶ谷小学校、梶ヶ谷小学校、宮崎台小学校、宮崎中学校、宮前平中学校の生徒の方たちが、4泊5日、平日に泊まっただいて、うちの施設から直接学校に通っただいて、それで、うちの施設に帰ってきましたら、宿題とか、あとうちの施設でできる事業に参加していただく、そういうことを含めてやっております。

こちらのほうもかなり盛況でありまして、三十何名のお申込みがありました。本当に平成10年から初めてずっと歴史が続いていて、その子たちが今ちょうどユースの年代といいますか、ユースワーカーズ倶楽部というボランティア団体がうちにあるのですが、高校生になったり大学生になったりした後、ユースワーカーズ倶楽部の部員が増え始めております。かなり増えているので、その辺のところも、今度ユースワーカーズ倶楽部の中でこの前も研修会をやしまして、ボランティアの在り方とか、あとは事故が起きたときにどういう対応をするかといったことを、私とかうちの職員が講師になって研修会をやって、一応ボランティアに参加してもらうというようなこともやっております。

あとは、八ヶ岳少年自然の家と協力させていただきまして、チャレンジ体験で9月に八ヶ岳の自然を体験しようというような形で、1泊2日で実施しております。また、冬には冬の八ヶ岳を体験しようということで、スキー教室でこちらにお世話になっております。これは八ヶ岳さんと一緒に共催というような形で、うちのほうが主催ですが、共催というような形でやらせていただいております。

新規事業の中では、おとなの珈琲焙煎教室というものがありませんでしたが、これは野口所長に相談しまして、野口所長に来ていただいて、ちょっと人数は

思ったより集まらなかったんですけども、ただアンケートの反応はすごくよく、ぜひ続けてほしいといった声があったので、またちょっとうちの職員と、また野口所長とも相談しながら進めていこうと思います。黒川青少年野外活動センターとも一緒に進めていけるのがいいのかなと。川崎市の施設ですので、お互いにいいことを考えております。

あとは、今年度、おりがみひろばという事業も初めてやります。うちの施設は、一応小学生対象のものに関しては、西梶ヶ谷小学校、梶ヶ谷小学校、宮崎台小学校、上作延小学校にチラシ配布を依頼して、全校生徒に配布していただいております。校長さんたちの御理解の下に配布していただいて、やはり配布することによって申込みが全然やっぱり違いますので、ちょっと力を入れている現状です。

あともう1つは、今までも大塚町会さんとは付き合いがあったんですが、大塚町会さんは700世帯くらいある世帯で、かなり大きい町会なものですから、大塚町会さんには必ず月末にうちの施設の案内を持って行って、回覧してもらおう形を取っております。そういう意味で、大塚町会の町会長さんなんかも気軽に、また地域教育会議でうちが手伝えるような内容も出てきているというのが現状です。

あと、今年度ちょっと力を入れているのは、川崎市が銘打っていますパラスポーツの推進ということで、ボッチャの指導に出かけております。私がボッチャの指導の資格とか、また障害者指導員の資格等を持っておりますので、そういうことを含めながら、今年度は犬蔵中学校に1か月に1回、橘中学校に1か月に1回、宮崎中学校も1か月に1回とか、あと川崎愛児園とか。あとは地域でボッチャの研修をやりたいとか、こども文化センターでやりたいというときに、うちの職員が指導に行っています。スポーツ協会にボッチャセットが5セットくらいありますので、それを持っていきながら出向いて、私たちが指導して、パラスポーツの推進ということを一応心がけて今年度はやっております。

いろんなことをやりながら進めているんですが、やっぱり難題もあるので、その辺のところは、職員とざっくばらんに話をしながらぶつけて進んでおります。

工事関係に関しては、齋藤からちょっと説明させていただきます。以上です。

- 齋藤副所長　では、3番の施設設備等の管理運営状況です。施設設備のほうは、安全・安心と環境美化ということで毎年進めてまいりました。今年度については、(1)にざっと書いてありますけれども、設備等の修繕を進めています。(2)は、1階にプレイホールという体育館のようなものがあるんですけれ

ども、そこに観覧席がついていまして、その観覧席がやはり経年劣化で破れたりしていたので、それを全部というか一部張り替えて、環境美化ということで進めてまいりました。次のページに進んでいただき、プールサイド、これもプールサイドの床のシートが剥がれたりしてちょっと危ないということで、こちらも急遽対応させていただいて、危ないところは全部貼り替えております。あと、1階の客室の廊下部分のクロスの貼り替えということで、ちょっと実施しております。

あと(3) 下半期改修工事ということで、大きいところでは、受変電設備の改修工事ということで、こちらはかなり大きい工事なので10日間くらい、1月29日から10日間くらい予約を取らずに、閉館して工事を実施する予定になります。あと、それに伴って、園庭にあるプールの排水溝の改修ということで、ここも来年1月から3月頃に予定しています。それと、自動制御盤の更新と、非常用発電機の更新も予定しています。これらは資材が来年の1月から3月頃に入ってくるので、年度末ちょっとばたばたした状況になると考えています。以上になります。

○佐藤所長 すみません、1点だけすみません。うちの施設でこの前事業をやりまして、ちょっと1人お子さんがけがをしました。そのけがの様子だけちょっと確認、ほかの施設にも関係あるような事故ですので、ちょっとお話しさせていただきます。

プレイホールでレクリエーションをやっていたところ、プレイホールに向かって宿泊棟から走ってきた子どもが途中のプレイホールの開いている扉にぶつかりそうになって、ぶつかるまいとよけようとした勢いで転んでしまい、手の親指の橈骨、あと小指の尺骨が折れたという事故でした。

救急車で対応し、お父さん、お母さんにも来ていただき、お父さんとお母さんに事情をお話しする中で、今回のケガで、青少年の家や事業がなくなったら困ります、とにかく事業は大切にしてくださいと言われたことはありがたかったのですが、施設としては、もっと安全に配慮しながら運営を進めなくちゃいけないことを担当として、また所長として、今安全管理ということを職員全員に徹底しております。こういうことがありましたので、合わせて報告します。

○番匠副部長 ありがとうございます。それでは、ただいまの説明に対して、質問がある方はいらっしゃいますか。

○上原係長 けがの件は、場所はプレイホールでしたか。

- 佐藤所長 オリエンテーションホールです。プレイホールの隣に位置するオリエンテーションホールという、利用する人が大体最初に説明を受けるちょっと広い場所です。ここには段差があり、転倒されたのは、段差があったからだと思います。
- 上原係長 段差で転倒して、手をついたという状況でしょうか。
- 佐藤所長 段差の前の廊下の部分で転倒されたようです。その時、ちょうどプレイホールで事業をやっている、廊下には人があまりいなかったから、誰も見ていない状況でした。プレイホールの扉が開いていて、勢いよく走ってきた結果ぶつかりそうになった。扉を閉めて事業をやっているならば、こんなことにはならなかったかもしれないし、その辺のところは少し考えなくちゃいけないと思いました。
- 境委員 1つ質問です。先ほど橘高校さんと対戦をするために来られた方たちを受け入れようということで、ある意味営業をかけてということでおっしゃっていました。以前、私たちが事業でお邪魔したとき、カウンターの上に県外他校の校名とかあるのを見かけましたが、友好団体みたいなところの利用は、現在もまだ御利用はあるのでしょうか。
- 佐藤所長 そうですね。生涯学習推進課でやっている事業の関係で、今年度も愛知県の子どもたちが泊まりにきていたりしています。また春休みなどは、県外の高校や大学がうちの施設に泊まって、県内の学校と練習試合を行うといったこともあります。そういった学校は、平日に利用するケースが多いです。
- 境委員 では、友好都市みたいなところに限らないで、もう幅広く御利用されているということですね。
- 佐藤所長 そうですね。沖縄からも来ますし、結局やっぱり安くて泊まれるところという、みんな調べると川崎市青少年の家に行きあたるといいます。
- 境委員 なるほど。どうもありがとうございました。
- 番匠副部長 ありがとうございます。大丈夫でしょうか。それでは、続きまして、八ヶ岳少年自然の家から説明をお願いいたします。

○名取所長 自然の家の所長の名取です。私は4月からこちらに赴任しまして、新たな形で皆さんとお付き合いさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、進捗状況について説明したいと思います。利用状況については、こちらに書いてあるとおり、平成30年との比較も書いてありますが、令和5年度10月までで5万5,996人という利用になっております。新型コロナウイルスの5類引下げに伴いまして、コロナ前に近い利用数に回復してきております。

当施設は、小中学校の自然教室による学校利用が全体の8割以上を占めるような施設になっておりますので、小学校、中学校の利用が一番多くなっているという施設になります。今年度につきましては、予定の学校は全校受入れをしております。

青少年団体につきましても、昨年度ちょっと夏休み期間につきましては、コロナの第7波がありまして、ちょっとキャンセル等あったんですが、今年度は着実に御利用いただいております。

学校団体が少し減っているんですが、実はコロナで遠くへ行けなくて、近場で何とかならないかということで、昨年までこちらを利用していた学校が今度は遠くへ出かけられるようになったということで、今年度利用がなくなった学校がありました。市内の小中学校の自然教室の利用につきましては、先ほども説明しました通り、全校来られているという形になります。

続きまして、今は11月ですけれども、実は施設の受水槽等の入替え工事、お風呂の改修工事等がありまして、現在ちょっと休館をしているところです。ほかの急遽の水漏れ工事とかもありまして、利用制限をちょっと11月、12月の頭までしているところでございます。

続きまして、小中学校の自然教室の受け入れですけれども、新型コロナウイルスの5類引き下げの影響か、親御さんの意識がちょっと変わってきたというようなところを感じています。今年度は、自然教室当日に微熱がある場合、薬を使用して熱を下げて参加するというようなことが見られるなど、結果、こちらに到着してから体調不良が出てしまうということが昨年度以前と比べ多く見られております。

また、逆に心配で欠席する児童・生徒も見られまして、1校当たり2～3名、多いところだと5～6名、場合によっては10名近い欠席もあったり、中には指導員も欠席というようなことがあったりするなど、人数は昨年度と

比較して少し減っているかなというところが見られております。

主催事業になりますが、大きな主催事業はあまりできていないところですが、ふじみ星空観察会を毎月行っておりまして、地元の人、また宿泊者も合わせて星空の観察会を毎月行っております。こちらは、人数制限をコロナ中はしておりまして、そちらを緩和して50名程度の利用人数で現在行っておりまして、順調に参加いただいているところです。利用者の中にはもう毎月来るといような方もいらっしゃるという形です。

次のふれあい星空観察会の方は、こちらは毎月決まった事業ではなく、こちらの宿泊者が星空観察をしたいというような希望に応じて、アストロハウスのほうで観察会を随時実施しております。

あと、ふれあいサマーキャンプ、以前一時期なくなっていましたけれども、今年度は行われております。今年度、夏季の雲海が実は富士見町非常によく、私どもの同じ会社の富士見パノラマリゾートの入笠山から秋になると雲海がすごくきれいに見られるというようなところがありまして、そちらのトレッキングと一緒に主催事業をやろうと思っていたんですが、ちょっと今回工事がありまして、秋の工事日程が重なるというようなところもありまして、ちょっと泣く泣く中止したというような経緯もございます。

最後の八ヶ岳自然観察会は、宿泊の利用者が自然観察について、鳥ですとか、星もあるんですけども、あと草木、そういったところの観察をするために、うちの施設の中の知識を持った職員が、希望があれば対応しているという形になっております。

続いて、運営面ですが、まず施設の安全管理というところで、老朽化が非常に進んでいるものですから、もう築46年以上というようなところになりまして、どんどんどんどん修繕箇所が増えているような状況になっております。その中でも一番緊急性が多いもの、それから安全性を考えたところを、予算があるものですから予算内で優先順位をつけながら随時行っております。今年度は、既にここに書いてあるだけ修繕がありますけれども、これ以外にもまだ新しいというか、どんどん修理が出てきているものですから、11月、ここは休館になっていますので、大きなものとか、利用があるときにはできないような修繕を今進めているところでございます。

それから、皆さん御承知のとおり、こちらの施設が土砂災害の特別警戒エリアに指定されておりまして、土砂災害については、避難とかのための研修会と訓練も実施しております。こちらの中身については、大雨が50年に一度と

か、そういう大雨が何日も続いた場合に起こる危険性があるというところでありまして、通常は雨が降ったからすぐ土砂災害が起こるというような状況ではないですが、もしそういったことが起き得るようなことがあった場合に、実務的にすぐここへ避難させましょうとか、こういうときにはもう利用をやめましょうとかいう、そういう研修会を行っております。

その他、施設がこれだけ広いものですから、木も随分年を取ってまいりまして、枯れた木等が随分出ております。黒川でもナラ枯れ等出ているようですが、こちらでも松が枯れたりしています。そういった木の病気、温暖化によるものだと思いますけれども、そういったものもありまして、倒木等の危険があるもののがかなりありますので、今、実はこの時期に一気に危ないものは伐採をしているというような状況です。危ないところにつきましては随時やっていますが、閑散期にも先を見越して伐採を行っております。

そのほか、今年度、かわさき市民祭りに富士見町が参加しておりまして、そちらに自然の家としても一緒に行きまして、P R 活動、パンフレット等の配布を行いながらクラフトの体験会等を実施しております。また、近隣施設等のパンフレットの配布も一緒に実施しております。

続いて、コロナウイルスの対応についてということで、インフルエンザと同じような状況になったということで、緩和したところがありまして、食堂に置くアクリルパネルとかをもう撤去しました。それから、発熱者の送迎に関しても、特定の人物だけで送迎していましたが、管理上の問題がいろいろありまして、職員による通常の病院送迎等をまた再開しております。

続いて、課題等への取り組み及び成果ということで、先ほども申しました土砂災害についての対応でマニュアル等を整備しました。またこの施設は非常に広く、初めて利用される方については、場所が分からない、どこに行っているのか分からないというようなお話が結構多かったものですから、各施設の床、じゅうたんの上に、こちらへ向かうとどの施設に行けますよというような案内表記を昨年度から新たに始めております。利用者からは非常に好評をいただいております、やっと自然の家に来たときに場所が分からない、迷わなくなったというようなところで、随分と高い評価を受けております。

あと、課題別の学習についてなんですけれども、ここは屋外での活動が多いものですから、季節、天気等によってできなくなるというようなことがあるものですから、パワーポイントでもできるようなプログラムをちょっと充実させているところでございます。

もう1つ。それから、物価の上昇によって、実はお食事が非常に、食事メニューが赤字になるような状況に来ておりまして、物価指数でも長野県内でも1年間で十何%上がるというようなところもあって非常に苦しい状況になっておりまして、今年度は市と協議の上、料金の改定を行っております。一般につきましては、8月から、学校につきましては、冬季中学校利用から料金を改定させていただきました。

研修等につきましては、先ほども言った土砂災害等、あとネイチャーゲームですとか、通常毎回行っているような研修を今年も滞りなく行っています。

次は事業計画になっておりますけれども、これは毎年ここに提示しておりますので、また御覧いただければと思います。自然の家からは、以上であります。

○番匠副部会長 ありがとうございます。それでは、今の説明に対して質問等ございますでしょうか。

○境委員 指定管理者さんは、富士見パノラマリゾートさんと母体が御一緒ということですが、そうすると、例えばですけども、今まではスキーでは自然の家に伺ったことがないんですけども、スキーなんかのスキー訓練でここに宿泊させていただいたときの連携みたいなものは、何かなさっていらっしゃいますか。

○名取所長 一番大きいところで、今、中学校のスキー教室の利用では、富士見パノラマリゾートのスキー場も利用しています。その際は、通常より安い料金でやらせていただいております。また、八ヶ岳少年自然の家を御利用になった川崎市の団体ですと、スキー場のほうで当然割引もしております。そういったところは優遇がちょっとできているかなといったところでございます。

あと、一般の利用でも、こちらに泊まった場合は、よそでリフト券を買うより安い価格で販売しているということがありますので、川崎の市民、またここを利用される方はそういったメリットがあるのかなと思います。

夏につきましても、夏もパノラマリゾートはやっていますので、そちらの割引もできています。

○境委員 夏ですと、要するに入笠山へのロープウエーとかですか。

○名取所長 そうです。ロープウエーの割引もあります。

○番匠副部長 ほかには御意見はございますか。それでは、本日委員の皆様から出された意見につきましては、できるだけ今後の運営に反映していただくよう、指定管理者の皆様をお願いしたいと思います。では、次の議題に移らせていただきます。

議題（２）その他ということですが、各委員の方々から何か御意見がありましたら、発言をお願いしたいと思います。なお、今回は事前に、各施設の状況が分かるように動画を事務局から配信したということですので、そちらの感想などもございましたら、よろしく願いいたします。

○中井川委員 今、各施設の管理運営状態をお聞かせいただいたんですけれども、どの施設も非常に何か老朽化が進んでいて、緊急の工事をしないと施設の利用に支障を来すというような話をいただいたと思っています。以前、ここ八ヶ岳については抜本的な改修工事を将来行うというような話を行政から伺っておりましたので、その進捗状況を教えていただきたいというのが1つ。もう1つは、他の施設においても、将来的な改築、その他計画、構想等があるのであれば、今持っている資料で構いませんので、お申出いただければと思います。よろしく願いします。

○上原係長 これは、事務局からお答えいたします。質問の確認ですが、1つは八ヶ岳の再編整備の状況について、もう1つは、その他の施設での改修計画があるかどうかについて、でよろしいでしょうか。

まず、八ヶ岳の再編計画につきましては、今年6月の文教委員会以降、ホームページ上でも公表しているところで、要は八ヶ岳少年自然の家が老朽化してきているので、これを再整備するか検討する中で、先ほど施設からも話がありましたけれども、敷地内に土砂災害のイエローゾーン・レッドゾーンに入っている箇所があるということで、同じ場所に再整備するのが妥当かどうかというところの検討を、施設所管である教育委員会事務局生涯学習推進課が中心となって進めているところです。今年度末までに一定検討結果を公表することになっており、現時点では他にお伝えすることはできませんけれども、当初の予定通り、今年度末に一定検討結果をお示しするという流れに今のところ変更はありませんので、もう少しお待ちいただくという形になります。

もう1点、他の施設の改修計画という部分ですが、こちらについては、現状今動いているものはないと理解をしています。他の3施設も施設所管

は教育委員会になってきますけれども、この辺は動きがあり次第、また委員の方々にも情報提供させていただきます。

現状は、個別の修繕について、各施設に対し市から調査を行い、まちづくり局や教育委員会事務局などと共有し、優先度の高いところから修繕を行っていくという状況です。

○番匠副部長 ありがとうございます。ほかに御意見はありますか。では、ちょっと私からですが、まずビデオについて。ビデオを皆さん見ていただいたかと思うんですが、たしか26日ぐらいに公開が止まるみたいな。

○上原係長 はい、一旦止める予定です。今は施設の利用状況を把握したいという以前の部会での御意見を踏まえ、委員の方だけに限定で公開しています。

○番匠副部長 非常に手間をかけて頑張っていたというのがよく分かるんですが、それが我々だけ見て終わりというのは非常にもったいないなという気がしまして、あのビデオをそのままというわけにはいかないでしょうけれども、何らかのああいう情報発信というか、活用ができればなというのが率直な感想です。本当にとってもいいのにもったいない。

あともう1つ思ったのは、ちょっと長いなと。もうちょっとコンパクトに作っていただければ見やすいかなという気もいたしました。今の時代、動画を活用するというのは、本当に有効なツールです。例えば、夢パークで見学希望がたくさんある、見学申込みがあるとおっしゃられていましたけれども、例えば説明会の状況をビデオに収めて、まずこれを見てください。見てもまだ納得いかないのであれば来てくださみたいな形で、ビデオを活用できればいいのかなと思っています。

あと、先ほど青少年の家でユースワーカーズ倶楽部という話が出てきましたけれども、多分ボランティアのような形で一生懸命頑張ってくれている方たちがいるということだと思っておりますけれども、大人たちも含めて、ほかの各施設にもそういう子どもたちというかボランティアっていると思っております。ボランティアというのは安い労働力ではなく、参加する子どもたちにも、参加する大人たちにも喜びと成長を与える素晴らしいものだと思うんです。その部分をちゃんとサポートしてあげるものが必要だと思っていて、例えば、昔すごく頑張っていた子どもたちも、今は大人になっていたりすると思っておりますけれども、ちょっと追跡調査をして、この施設を使うことによって、子ど

もたちが大人になる段階でこういう影響がありましたよとか、ボランティアをすることによって、私はこういうことができるようになりましたよとか、人格形成によりこんないいことがありましたみたいなものを、当事者の子どもでももちろん重要ですけれども、大人になった人たちからフィードバックを受けて、ほら、この20年の活動でこんなに子どもたちに寄与していましたよみたいなものをまとめるみたいな、そこが非常に目的としてやってきたことだし、それをしっかりさせる、明確にすることが目的達成の度合いをはかるものになるかと思しますので、そういうこともしていくと今後のために役に立つのではないかなと思しますので、ちょっと検討していただければと思います。私からは、以上です。

○上原係長 動画の部分については、指定管理者の皆さんにご協力いただきありがとうございました。今回各施設で作成いただいた動画は、全委員に施設の普段の利用の様子を見ていただくという前提で撮っていただいて、本当に撮られる団体さんもそういった趣旨に御理解、御協力いただきながら、撮らせていただいたという状況ですので、一般公開となると、当初と主旨も異なりますし、また顔が映っていたり、名札が写っていたり、といった個人を特定できる情報が多く含まれていますので、そのままでは厳しいです。

または、編集して広く公開できるように作り込むという御意見もあるかもしれませんが、これについて、もしやるとなった場合は各施設と御相談になると思いますが、加工を伴うということは各指定管理者の作業負担が増えますので、これも厳しいと考えております。今回御意見としてあったことは、摘録には残させていただきますが、現時点で、動画の加工は厳しいと考えます。

なお、この動画自体は、公開は止めますけれども、あくまでも非公開にするだけで、データ自体が事務局で保管していますので、そこは御承知おきいただきたいと思っています。

○番匠副部長 それでは、御意見がなければ、進行を事務に戻したいと思います。よろしいでしょうか。

○上原係長 副部長ありがとうございました。

(事務局から委員に対し事務連絡)

次回の青少年教育施設専門部会の予定ですけれども、こちらについては、昨年度と同時期、2月頃に開催したいというふうに考えております。場所は、順番でいきますと、子ども夢パークとなります。日程等につきましては、所長と御相談させていただきたいと思っております。皆様におかれましては、日程調整への御協力等、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、議事が全て終了いたしましたので、令和5年度第1回青少年教育施設専門部会は閉会とさせていただきます。遠いところ御出席をいただきまして、ありがとうございました。引き続きぜひよろしくお願いいたします。